



ウミシヨウブ開花



石垣島アウトフィッターユニオンの安全訓練

わってくるのです。船でスノーケルのポイントに連れて行き泳いでくださいという「点」の提供ではなく、あるルートを巡る中で物語ができあがっていく、それを1時間半くらい体験すると、色々なことに気づくのです。直接言葉にしないで伝えること、相手に気づかせることが、インタープリテーションの究極の目的です。それをベースとして学び、今までエコツアーの企画や提供の中で実践してきました。

時、ツアーを提供している事業者の安全対策を求める声があり、石垣島の自然体験ツアーを提供する事業者らによる集まりを設けました。話し合いでは事故発生時の連絡網の整備や安全対策に向けた訓練をする必要性を皆が感じ、水難事故防止を目的とした「石垣島沿岸レジャー安全協議会」を2005年に立ち上げました。私は役員の人として当時から参加しています。安全訓練は事故防止対策、事故発生時の救助、消防への連絡など内容がある程度決まっています、それを継続することが必要です。訓練などを通じてガイド同士が集まるうちに、環境問題や地域とのつながり、ガイドのスキルアップなどの話ができるようになり、会の活動範囲が広がりました。そこで、2017年に私が会長になった際に団体名を「石垣島アウトフィッターユニオン」に変更しました。アウトフィッターには自然をなりたいにする人という意

味があります。顔の見えるガイド同士が安全対策を軸に、地域貢献や環境保全に取り組むという「人」に焦点をあてたメッセージを込めました。というのも、当時からオーバーツーリズムの問題があり、自然の知識がない人材をガイドとして雇い、単なる商売目的で自然体験ツアーを提供する観光事業者が増え、お客様とのトラブルが生じていたことも背景にありました。問題のある事業者はガイドの顔が見えませんが、そこの違いも見せられるので、自然を生業にするガイドという「人」に焦点をあてた名称にしました。石垣島アウトフィッターユニオンの最近の取組としては、独自のインタープリテーション計画（IP計画）を作成したことです。IP計画とはビジターセンターや博物館、観光地などにおいて、それぞれの目的やテーマ、対象者の想定、来訪者にテーマを届ける手段などを文章化したものです。IP計画はその施



平久保半島 IP 計画ワークショップ(石垣島北部地域 IP 全体計画より)

設や地域で働く様々な役割の人たちのためにあり、理念や具体的な手法が共有されるマニュアルとなりま

に参加する人へ伝えたいメッセージをお願いします。

旅行で訪れる方には、石垣島の自然体験が全く別の世界のものではなく、その方の日常とつながっていると感じてもらいたいです。例えば今年、石垣島ではサンゴの白化が起き大きな問題になっていますが、そのようなニュースを見た時に自分の暮らしとどうつながっているのか、自分たちのライフスタイルを少し変えることで何かできるのではないかと、という思いを馳せてもらえると嬉しいですね。この問題の原因は気候変動に由来しているため、島で暮らす私たちだけではどうにもできませんから。また、地元の子供たちには地域の自然を知り、島を旅立つ時にふるさとの自然を心にとめてもらいたいです。自分の目で生きたサンゴを見た、マングローブの泥を歩いた経験を持って大人になってほしいです。

素敵なメッセージがありがっつりです。

最後に、エコツアーや環境教育

大堀 健司
1966年東京生まれ。1991年琉球大学理学部海洋学科(地質学専攻)卒業。1993年同大学理学部理学専攻卒業。大学卒業後から7年間、建設コンサルタントで地質調査担当。2001年に石垣島に移住し、エコツアーふくみみ開業。小さな子どもいる家族向けの自然体験ツアーを開始。2003年から地元の小中学校でサンゴ礁保全のための環境教育を開始。現在に至る。エコツアーふくみみ代表、石垣島アウトフィッターユニオン会長、一般社団法人インタープリテーション協会 インタープリタートレーナー。

琉球大学で地質学を学び、2001年に家族で石垣島に移住し「エコツアーふくみみ」を開業。2016年に第11回エコツーリズム大賞・特別賞を受賞。地域の子供たちへの環境教育に取り組みながら、2017年から石垣島の自然体験ツアーを提供する事業者が集まった「石垣島アウトフィッターユニオン」の会長をつとめる大堀氏。今般、ガイド業を始めた背景、エコツアーを企画する際に大切にしていること、石垣島での最近の活動や取組などについて話を伺った。



大堀 健司氏
Kenji Ohori
エコツアーふくみみ 代表



マングローブカメラ

エコツアーと環境教育を通じて伝える石垣島の自然

1日1組、のんびり型エコツアーに込めた思い

収録日：2024年10月11日
収録場所：オンライン
インタビューア：赤間亜希
(日本エコツーリズム協会事務局)

自然体験の提供... 観光商品エコツアーと環境教育の中で

石垣島で「エコツアーふくみみ」を立ち上げ、ガイド業を始めたいきっかけを教えてください。

学生時代に琉球大学で地質学を学び、卒業後は東京のコンサル会社に就職し原子力発電所建設に伴う活断層調査(地質調査)を担当しました。仕事は長期出張が多く忙しい毎日、自然が好きで学んだ地質学を職に活かすと、自然を開発する側になるということに葛藤を感じていました。長男が生まれたことをきっかけに学生時代を過ごした沖縄で子育てや仕事をしたいと思い、2000年に退社し、2001年に石垣島で「エコツアーふくみみ」を夫婦で立ち上げました。妻も、私と同じ大学で海洋生物学を学んでいたため、お互いの専門性を活かせる仕事ガイド業でした。

エコツアーを生業にするという決断から東京でインタープリテーションの技術を学ぶなど二年かけて準備をしました。当初から小さい子供を連れた家族が安心して参加できる自然体験を提供したいという思いがあり、そのフィールドとして石垣島はとてもバランスが良かったのです。起業してから24年経ちますが、ファミリー層を中心に1日1組限定のエコツアーを提供し続けています。



小学校でのサンゴ学習

エコツアーの企画や提供の際に大切にしていることはありますか。

インタープリテーションで学んだ技術をガイディングに活かし、単なる自然解説ではなく、石垣島の自然体験を通じて、参加者に自然とのつながりを感じてもらうことを大事にしました。きれいな海や生き物を見せて終わりではなく、例えばサンゴ礁の構造や成り立ちの物語、生き物たちがどう関わりながら暮らしているのかを、遊びながら話していくと、終わるころに参加者の中でサンゴ礁に対する印象が変